

栃木県シルバー人材センター連合会会報

シルバー とちのは

第45号

令和7年1月15日



第 45 号 目 次



● 新年のあいさつ	2
● 令和6年度連合会事業の進捗について	3
● 県SC女性の会活動状況	5
● センター活動紹介	6
● 会員紹介	9
● お知らせ一覧	12



新年のあいさつ

理事長 小川 俊彦

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

令和 7 年を迎え、まずは日々のご支援に心より感謝申し上げます。昨年は、栃木県シルバー人材センター連合会の活動において多くの成果を上げることができました。これもひとえに、各シルバー人材センターの皆様をはじめ、関係機関の皆様のご理解、ご協力の賜物と心よりお礼申し上げます。

さて、令和 7 年は「巳年」にあたります。巳は「再生」や「知恵」を象徴する干支であり、私たちのこれからの歩みを考えるうえで、大きな示唆を与えてくれていきます。今年、「知恵」を出し合い、創意工夫によりシルバー人材センターがさらなる成長を遂げるための取り組みを強化していければと考えます。

現在、シルバー人材センターを取り巻く環境は厳しさを増しています。特に、会員数の減少という課題に直面しており、これを乗り越えることが今後の大きなテーマです。高齢化社会が進展する中で、シルバー人材センターの役割はますます重要となっており、同時に会員の皆様の意欲を維持し、新たな会員を迎えるた

めの方策が求められています。この課題に対して、連合会といたしましては地域での啓発活動や新たなサービスの提供を積極的に進め、会員一人ひとりが誇りを持って活動できる環境を整えていきます。また、会員の皆様がさらに活躍できる場を提供するために、連合会並びに各センター役員との資質向上も不可欠です。これら一人ひとりが専門性を高め、シルバー人材センターの理念に基づいた深い理解を持つことが、発注者や会員に質の高い支援を提供するために重要です。職員が成長すること、会員数の増加や組織の活性化につながることを目指しています。そのため、研修やスキルアップの機会を増やし、職員の学びの機会を提供して参りたいと考えております。

令和 7 年は「知恵」の年として、私たち自身が新たな挑戦をし、成長する年であるべきです。巳年に象徴されるように、私たち自身が「再生」し、「知恵」を活かし、地域社会を支える力となるよう全力を尽くして参りましょつ。

本年も引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。共に歩み、共に成長し、より良い未来を築いていけることを楽しみにしております。

表紙写真に寄せて

公益社団法人 野木町シルバー人材センター

栃木県南端の自然豊かな野木町では、シルバー人材センターの会員が渡良瀬遊水地内で「ヨシ刈り」を行っています。この活動は、単なる自然保護だけでなく、伝統的な国産よしずの材料を確保する重要な役割を担っています。

渡良瀬遊水地は日本最大級の湿地であり、多様な生態系を育むラムサール条約登録地です。この地域に広がるヨシは、湿地の環境を守る一方で、繁茂すると他の植物の成長を妨げたり、生物多様性を損なう可能性があります。そのため、適切な管理が必要であり、ヨシ刈りは湿地の生態系を守る重要な活動です。

さらに、野木町で行われるヨシ刈りのもう一つの目的は、国産よしずの製造に使われる材料を確保することです。よしずは、夏場の日よけや目隠しとして使用される日本の伝統的な生活用品で、天然素材の美しさや機能性が見直されています。渡良瀬遊水地のヨシは、その品質の高さから高級よしずの原料として重宝されており、野木町で作成されたよしずは、新宿御苑や浜離宮恩賜庭園といった名高い庭園でも使用されています。

国産よしずの製造には、刈り取ったヨシを丁寧に加工する必要があります。この工程では、自然乾燥や手作業での仕上げを通じて、高品質な製品が生み出されます。2018年には、この製品が栃木県の伝統工芸品に指定され、その文化的価値が高く評価されています。

野木町のヨシ刈りは、厳しい寒さの冬場に行われ、毎年3月に開催される渡良瀬遊水地の「ヨシ焼き」の直前まで続けられます。ヨシ焼きは湿地の管理と景観保全を目的とする大規模なイベントで、野木町の住民がヨシ刈りに込めた努力がその基盤を支えています。この活動は、単なる自然環境の保全にとどまらず、日本の伝統文化を守る役割も果たしています。シルバー人材センターの会員たちは、ヨシ刈り作業を通じて、地元との自然と文化を支える一翼を担い、生きがいや健康づくりにもつなげています。

現在、野木町シルバー人材センターではヨシ刈り活動も含め多種多様な活動に参加していただける会員を募集しています。興味のある方はぜひ事務局までお気軽にお問い合わせください。

令和6年度連合会事業の進捗について

連合会では、「事業推進計画」に基づき、着実な事業の実施に努め、各シルバー人材センターや関係機関と連携しながら各事業を積極的に展開しています。これまでの内容を振り返りつつ、令和6年度の事業について報告します。

会員拡大・普及啓発事業

会員拡大・普及啓発事業では、県内会員数が伸び悩んでいることを踏まえ、県民の皆様にはシルバー人材センター事業を広く周知するため、各種イベントなどに参加し、情報発信に努めています。今年度も関係機関との連携を図りながら、栃木県庁や栃木県立図書館などでの展示を実施しました。また、ポスターデザイン及びリーフレットの見直しや会員募集用のぼり旗の作成などを行いました。さらに、テレビ・ラジオなどのマスメディアを用いた広報活動では、いきいき元気なセンターをイメージできるように内容を見直し、県民の皆様へお伝えしてきました。

引き続き、会員の拡大につながる取組みについて、各センターや会員

の皆様へ寄り添った事業を実施し、シルバー人材センター事業の発展拡充に向け、努めて参ります。



▶ 会員募集中のぼり旗

安全・適正就業推進事業

シルバー事業における安全・適正就業の推進のため、今年度も7月を「安全・適正就業強化月間」と定め、就業中及び就業途上の事故撲滅と就業形態の適正化を県内センターで重点的に取り組むとともに、連合会による県内6センターにおいて安全就業パトロールを実施し、会員の安全意識の向上に努めました。

併せて、「安全・適正就業担当役員研修会」を開催し、「事故0」を目指して安全対策の意識をさらに高めていただきました。

また、安全就業を啓発するため、のぼり旗の作成や㈱エム栃木が主催する「無事故無違反チャレ

ンジ！2024」に協賛及びキャンペーンへの参加を呼びかけ、安全就業への取組強化を地域に発信しました。

安全就業実施中

シルバー人材センター



▶ 安全就業啓発用のぼり旗



▶ 植木剪定作業現場でのパトロール

就業開拓推進事業

令和6年8月21日(水)～26日(月)のうち3日間、地域社会に貢献するシルバー人材センター事業の趣旨についてより一層の理解促進や、補助金の安定確保などへの協力を求め、支援要請活動を実施しました。本活動では、栃木県知事及び栃木県議会議長などの行政団体と商工関係団体など11箇所に対して、全国シルバー人材センター事業協会の令和6年度定時総

会で決議された要望書及び当連合会の要請書を手交しました。



▲ 岩佐県保健福祉部長 (右) 小川理事長 (左)

各種研修会・会議などの開催

デジタル化推進及びセンターの運営体制の強化を図るため、会員及びセンター職員を対象に研修会や会議などを実施しました。

会員対象

- ・ スマートフォン講座
- ・ 健康づくり講座
- ・ コミュニケーション講座

など



職員対象

- ・ 法律問題について
- ・ ハラスメント防止研修
- ・ 会計研修
- ・ デジタル化推進事例発表

など

高齢者活躍人材確保育成事業

◆周知・広報

シルバー人材センターについて、より多くの方に関心を持っていただくため、会員の募集、仕事のご依頼、就業体験や技能講習、各種イベントの開催案内など、さまざまな情報を新聞、広報誌、折込みチラシ、当連合会や栃木県のホームページなどを活用して発信しています。

また今年度は、新規入会につなげるための新たな取り組みとして、セミナーの開催や、郵便局でのポスタ



▲ラジオ番組出演



▲幸せライフセミナー



◆就業体験・技能講習

シルバー人材センターに入会を希望する方を対象に、就業体験や技能講習を開催しました。

会員の仕事ぶりを見学し説明を聞くことで入会後の様子を理解していただくことを目的とした「就業体験」と、会員として就業する際に役立つ基礎知識を学んでいただく「技能講習」は、本事業での重要な柱となっています。

何れも好評を得ている事業であることから、内容の充実を図ると共に、より一層ニーズに合ったものとなるよう努めて参ります。



▲技能講習（整枝・剪定）



▲就業体験（カート整理）

センターの至極の一品

県内センターの独自事業紹介

自分の得意が活かせる！



手作り石けん (宇都宮市SC)

宇都宮市SCで石けん作りを始めて15年。オリーブオイルを使った肌に優しい石けんをぜひ一度お試しください。



スマホ講座 (小山市SC)

はじめてスマホを使う方や操作に自信がない方へ向けたスマホ講座(計6講座)を1回500円で受講できます。

門松 (那須烏山市SC)

30年以上続く門松作りは、6年度も会員6名にて実施しており、毎年市内外よりご好評を頂いております。近年は松不足で苦慮していますので情報がありましたらお寄せください。



そば殻枕 (芳賀町SC)

立ち上げ当初からの作り方が受け継がれ、女性会員3名がそば殻枕などを製作し、「道の駅 はが」などで販売しています。





栃木県シルバー人材センター 女性の会活動状況



「栃木県シルバー人材センター女性の会」は令和3年2月に発足し、現在は9センター構成員18名で活動を行っています。

年1回は先進事例の視察と「いきいきシルバー作品展示即売会」を実施し、女性会員の拡大及び活躍範囲を広げるための検討を重ねています。今年度の視察としては、

埼玉県さいたま市で開催された「シルボン又全国大会2024 in 埼玉」に参加し、県外の活動を間近で感じることができた貴重な機会となりました。また、展示販売もを行い、県外の皆様へ活動をアピールする場ともなりました。作品展示即売会としては、12月に小山市で開催された「小山シルバーフェスタin2024」に参加し、多くの県民の皆様に女性会員の幅広い活躍を紹介することができました。

次年度についても女性の会の発展に向けて一考し、更なる活躍に努めて参ります。

駒場 長子 副代表

(鹿沼市SC所属)

「女性の会」では、笑いヨガ、フレイル予防運動など、他市の会員さんと一緒に楽しく学ぶことが出来ます。笑顔あふれる雰囲気の中で、さらにシルバーの和を広げていきたいと思っております。



高橋 京子 副代表

(宇都宮市SC所属)

地域に根ざすSCにとって、刺激と気づきが得られる貴重な場と思います。

皆様とより一層、交流の輪が広がる事を願っています。



関根 浩子 代表

(日光市SC所属)

皆さんのすばらしい活動に拍手です！女性の会は情報交換に欠く事のできない交流の場です。

今後とも、女性会員の拡大に向けて一緒に頑張りましょう！



シルボン又全国大会 2024 in 埼玉

令和6年11月19日(火)、大宮ソニックシティ(埼玉県さいたま市)で開催された「シルボン又全国大会 2024 in 埼玉」に、本県から3センターが参加し、ステージイベントと展示販売ブースを盛り上げました。

ステージイベントでは、佐野市シルバー人材センターが女性委員会の活動についての事例発表を行い、女性会員の皆さんがシルバークッキング教室やお茶べりサロンの活動を通じ、元気にいきいきと活躍されている状況を全国へ発信しました。

同会場には、全国から11センターの出展販売ブースが設けられ、各センター趣向を凝らした作品が展示されました。本県からは「栃木県シルバー人材センター女性の会」として、宇都宮市シルバー人材センターと鹿沼市シルバー人材センターが代表で出展しました。両センターとも女性会員が手がけたかわいらしい編みぐるみやこだわりを感じるクラフトバッグなどを展示販売し、来場者に本県の女性会員の活躍を知っていただく良い機会となりました。

また、来場者へ配付された全国版のシルボン又女性活躍事例集では宇都宮市シルバー人材センターの会員が、関東ブロック版では佐野市シルバー人材センターの活躍が掲載され、栃木県の女性会員の魅力を広めることができました。



▲佐野市SC発表の様子

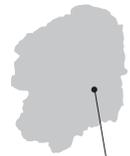


▲女性の会展示販売ブース

センター活動紹介

公益社団法人

高根沢町シルバー人材センター



高根沢町

県都宇都宮に隣接した水田地帯が広がる高根沢町は、皇室の台所と称される「宮内庁御料牧場」があることでも知られています。

当センターの状況

高根沢町は、農村地帯のため企業が少なく、作業依頼は、町と一般家庭が中心となっています。

新規入会者の減少と高齢化による会員不足は、多くのセンターと同様に重要な課題となっています。除草作業、植木剪定等の屋外作業にとどまらず、屋内清掃などに携わる会員も不足しており、発注者の要望に応えられていない状況です。

会員の増強のためには、会員の就業ニーズと現状とのミスマッチの解消と新たな職域開拓の必要性を感じています。

高齢者等の見守り事業

当センターでは、高齢者等の見守り・ゴミ出しの手伝いを行っています。町内の企業から寄贈された軽トラックを使用して、複数の会員が100件ほどの家庭を週一回安否確認に訪問しています。



▲見守り事業 (軽トラック)

多様な就業ニーズへの対応

会員の多様な就業ニーズに対応するため、役場窓口の休日受付や事務作業、米検査補助作業、団体や町のイベントの会場設営やモニュメント(写真) 作製の下準備など、当センターで対応できそうな作業は、可能な限り受託しています。

しかしながら女性会員については会員が減少しており、また、ほとんどの就業が清掃作業ということから、入会の促進と合わせて職域の開拓について思案しています。



▲たんたん祭り モニュメント

センターの魅力創出

入会促進のためには、就業機会の確保は当然のことですが、仕事以外のセンターの魅力も必要です。レクリエーション(グラウンドゴルフ)や新年会、講習会(令和5年度は認知症サポーター養成講座)等を実施し、会員同士の交流や情報交換の場を創出しています。

シルバーは、会員の拡大や就業機会の拡大など、従来からの課題に加え、新たな課題も山積しています。円滑な運営ができるよう役職員、会員が協力し合い、取り組んでいます。

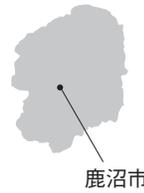


▲シルバーの日 奉仕作業

センター活動紹介

公益社団法人

鹿沼市シルバー人材センター



公共施設等で除草作業を実施

当センターでは、今年度、猛暑対策並びに熱中症対策として、7月25日から8月24日までの1か月間、「サマータイム制度（午前中のみの就業）」の導入を試験的に行いました。まずは機械除草に限定して実施



▲除草作業



▲鹿沼消防本部での除草活動（92名の会員が参加）

しましたが、班員からは、「体への負担が軽減される」など好評でありました。そのため、安全・適正就業委員会では次年度より他の職種への導入の検討を始めたところです。また、普及啓発促進月間の統一行動として、公共施設等での除草作業を実施し、全会員の3割にあたる158名が参加しました。

一閑張りのざる制作体験

新たな独自事業の試みとして10月7日、28日に「一閑張りのざる制作体験」を開催しました。

「一閑張り」とは、日本伝統の紙漆細工で、ざるに和紙を張り重ねて、形を作り、型が完成したら柿渋を塗り色付けを行います。

当日は、8名の会員が参加し、講師の方から作り方を教わりながら、和やかな雰囲気の中で制作をしました。



▲制作の様子



▲参加者の皆さん



▲完成した一閑張り作品

センター活動紹介

公益社団法人

栃木市シルバー人材センター



栃木市は、平成22年3月に栃木市と大平町、藤岡町、都賀町の1市3町が合併し、平成23年10月に西方町、平成26年4月に岩舟町と合併して現在に至ります。

市の西側に三轟山、岩船山、中央に太平山、南側には渡良瀬遊水地などの自然景観が広がっています。また、渡良瀬川、思川、巴波川など豊かな河川が流れています。

栃木市シルバー人材センターは、本部、2事業所、2連絡所の組織体



▲巴波川と蔵の街遊覧船

制で、各所の職員が連携を図りながら、日々の業務を遂行しています。

独自事業

独自事業である刃物研ぎは、平成8年4月から開始し、現在まで28年間に亘り、会員へ受け継がれて実施しています。

現在は、月に二回、各地域を巡回し実施しています。お預かりした刃物は、砥石を使用し、一つ一つ丁寧に仕上げています。コロナ禍以前は、センターのPRを兼ねてイベント開催時にも実施していました。



▲刃物研ぎ

今後も、心待ちにしている地域の方々へ、シルバーの刃物研ぎを提供し続けられるよう、受け継ぐ会員の発掘・育成を行ってまいります。

普及啓発事業

シルバー人材センター事業普及強化月間をとらえ、6地域（栃木、大平、藤岡、都賀、西方、岩舟）において、地域社会への貢献、会員同士の親睦及びセンターの周知を目的としたボランティア活動を実施しています。

会員同士の親睦を図るため各地域に設置している地域班が主体となり、会員へ参加の呼びかけを行っています。当日は、会員同士、顔を合わせることを楽しみに参加しています。また、ボランティア活動の他にも、会員拡大やセンターの周知を目的として、ケーブルテレビでの1分間P



▲渡良瀬遊水地クリーン作戦

R、公共施設・民間事業所へのチラシ設置、イベントへの出展など、会員と職員が力を合わせて実施しています。



▲イベント出展時のPR活動

第一次中期計画

社会経済情勢の変化が著しい状況の下で、引き続き、センターが市民のよりどころとして信頼される就業を遂行し、会員が健康で生きがいのあるシルバーライフを実現することができるように、第一次中期計画を策定しました。会員の増強、就業機会の拡大と開拓、安全就業の徹底など、課題は多様にあります。会員と協働して、会員の笑顔とお客様の笑顔をつなぐ魅力あるセンターづくりを推進してまいります。

会員紹介

公益社団法人 大田原市シルバー人材センター

橋本和伸さん 72歳



▲自身で作製した台車で清掃用具を運ぶ橋本和伸さん

大田原市シルバー人材センターで大活躍している橋本和伸さんを紹介いたします。

橋本さんは平成30年6月に入会され、屋内外の清掃、草取り及び軽微な業務を積極的に引き

受けてくださり、当センターにおいて、必要不可欠な存在となっております。

当センターの会員として心がけていることを聞いてみると、それは「できるだけ効率よ



▲清掃の様子

く作業すること」とのことです。

橋本さんは清掃業務において、必要な用具が多く整理しきれない為、自車に積める程度の台車を自分で作製しました。そして、それを活用することで用具を何回にも分けて運ぶ手間を省くことで、効率よく清掃できるようになったとのこと。

橋本さんは当センターの会員になってから今日まで、3回のガンの手術を経験したとのこと



▲トイレ清掃の様子

です。幸いにも、すべてステイジィで発見することができました。毎回主治医の先生に驚かれるほどの回復力とのこと、その回復力は「シルバー人材センターの会員になり、元気な身体を維持できているから」と橋本さんは断言しています。

今後も、元気な高齢者として頑張っている橋本さんの益々のご活躍を期待しております。

会員紹介

公益社団法人益子町シルバー人材センター

高橋和弘さん 71歳



▲高橋和弘さん

「道の駅ましこ」のある風光明媚な里山風景の豊かな益子町の益子町シルバー人材センターの会員を代表して、理事長の高橋さんを紹介いたします。

地元企業を退職され、平成二十九年四月の入会で会員歴七年の高橋さんは、昨年六月に開催された定時総会で理事長に選出された、

若干七十一歳の若手理事長です。日頃は草刈班の班長として、明るく、実直で積極的に就労に勤しんでおります。

お住まいは町の西方の真岡市よりの埴地区で、奥様と二人暮らし、「趣味・特技は？」の問いかけに「ない」とのこと。今では草刈の仕事が趣味・特技になってい

るのかもしれませんが。

理事長就任後は、ここ数年の懸案事項であった配分金単価の見直しを推し進め、令和七年度から改正する手はずを整えたところで

また、去る十一月十六日に開催された町を挙げての催事「益子町民まつり」では、益子町シルバー人材センターのブースで陣頭指揮をとられ、独自事業の「門松」の受注受付や新規会員募集斡旋に尽力されていきました。



▲道の駅ましこ

これからの抱負は、理事長として、高齢者の健康で生きがいのある生活の実現と地域社会への貢献を目的として、会員、役員、事務局が丸となって、新規会員の確保や既存会員の安全就労を促しながら、小規模ながらも益子町シルバー人材センターが末永く存続できるよう、持続可能な運営を着実に進めたいとのことでした。

草刈班班長として、さらに理事長として今後のご活躍にご期待いたします。

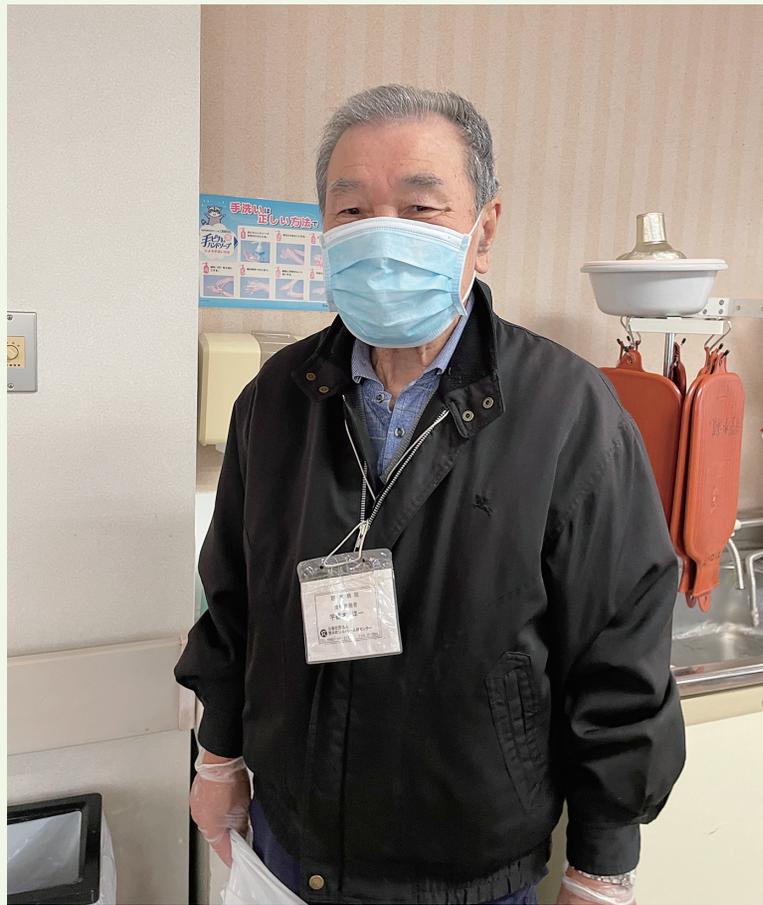


▲「益子町民まつり」の様子

会員紹介

公益社団法人野木町シルバー人材センター

宇都木 洋一 さん
83歳



▲宇都木洋一さん

就業体験からの初の入会者

野木町シルバー人材センターで活躍されている宇都木洋一さんをご紹介します。

宇都木さんは、栃木県シルバー人材センター連合会で実施してい

る就業体験を経て令和5年8月に入会されました。

現在は病院内でのごみの収集作業を担当しており、清潔で快適な環境を維持するために日々努めておられます。その丁寧で迅速な仕事ぶりは、病院スタッフや患者様

からも高く評価されています。

宇都木さんは、環境の清掃管理を通じて地域社会に貢献することに強い意欲を持ち、責任感とプロ意識を持って取り組んでいます。

病院という特殊な環境での作業には、衛生管理や安全性への細やかな配慮が求められますが、宇都木さんはこれらを確実に実践し、信頼を得ています。

また、宇都木さんの趣味は囲碁です。地域での囲碁活動にも貢献されており、囲碁を通じて培った

集中力や冷静な判断力は、仕事にも活かされていると感じられます。

宇都木さんの存在は、シルバー人材センターにとって大きな財産であり、これからも地域社会に欠かせない貢献を続けていけることでしよう。温かいお人柄と確かな技術で、地域の皆様に安心と快適さを提供し続けてくださることを、私たち一同心より応援しております。



▲病院内での作業姿

全シ協会長表彰

長期就任会長表彰 (敬称略)

○全シ協に加入するセンター又は都道府県連合において、10年以上役員として就任し、推薦時においても、会長又は理事長の職にある者

- 小山市 SC 生井 克明 理事長
- 上三川町 SC 濱野 英一 理事長

栃木県シルバー人材センター連合会表彰

センター表彰 (敬称略)

○全シ協第2次100万人計画目標会員数(栃木県)の達成率が、95.0%以上のセンターであるセンター

- 栃木市 SC 真岡市 SC 大田原市 SC
- さくら市 SC 那須烏山市 SC 茂木町 SC
- 市貝町 SC 芳賀町 SC 壬生町 SC
- 野木町 SC 高根沢町 SC 那珂川町 SC

○女性会員が前年度末から減少しておらず、女性会員の構成比が45.0%以上かつ過去3年間表彰実績がないセンター
鹿沼市 SC

会員表彰 (敬称略)

○会員歴が通算で20年を超え、かつ、他の模範として実績があった会員

県内14SC 県下47名



元気シニア活躍推進モデル事業・報告会

- 地域に役立つ活動事例の報告会 -

日時 3月18日(火) 13時30分▶16時

場所 栃木市栃木文化会館 小ホール (定員 400名)

対象 どなたでも参加OK (申込不要)
自治体の方・企業の方・学生さん・その他活動に関心のある方

シニアの魅力ある社会参加活動の普及と活躍の推進を目的に、老人クラブ活動を主体とした社会貢献活動等を「元気シニア活躍推進モデル事業」として実施しています。

当日は、「元気シニア活躍推進モデル事業」実施先の老人クラブ(栃木市 静寿会、箱森東部シニアクラブ、足利市川崎町曙クラブ)の代表者様から、事業の結果報告を中心に、シニアの社会参加活動に関する「最新の情報やノウハウ等」も、併せてご報告いただきます。



生涯現役シニア
応援センター **ぷらっと**

宇都宮市駒生町3337-1とちぎ健康の森2階
担当:岡田
電話:028-623-1291 FAX:028-621-4767
E-mail: shougaijeneki-p@tochigirouren.or.jp

編集 後記

今回の「とちのは」も構成を改め、センターの幅広い活動を紹介させていただきました。
企画広報委員会並びに執筆していただいた皆さん、ご協力ありがとうございました。

シルボンヌとは…

シルボンヌ「Silbonne」とは英語「silver」とフランス語「bonne」を合わせた造語であり、シルバー人材センターの女性会員のことです。



公益財団法人
栃木県シルバー人材センター連合会

〒320-8503

栃木県宇都宮市駒生町3337-1 とちぎ健康の森内

TEL 028-627-1179



連合会ホームページ

栃木県シルバー人材センター連合会

検索

会員募集中!!

企画広報委員

- 松村 誠 委員長 (栃木県シルバー人材センター連合会)
- 山田瑠美子 委員 (宇都宮市シルバー人材センター)
- 和泉田憲吾 委員 (小山市シルバー人材センター)
- 鈴木 誠 委員 (大田原市シルバー人材センター)
- 荒井久美子 委員 (那須烏山市シルバー人材センター)
- 飯村 正行 委員 (益子町シルバー人材センター)
- 山崎 喜人 委員 (野木町シルバー人材センター)